

## 今だから分かる 今だからできることがある



玉野寛子先生

担当の玉野寛子先生は村の出身です。4月に行われたこの活動のオリエンテーションで、生徒たちを前に次のような思いを話しました。「結婚して村外に住み、村を通り抜けて通勤をしていた時期があります。何て美しい景色なんだろうと思いつつ、村内を通っていきながら、住んでいた頃は、気づいていなかった。当たり前だったからです。高校時代から村外に出て、ふるさとに戻ったからこそ気づけたことでした。皆さんにも、村を離れてみて分かったこと、再発見がありますよね。今、この環境だからこそできる『ふるさと学習』にしていきたいませんか。」

## 村の復興について考えよう。今の自分にできることは？

考えを言葉に表す。  
そして他者と意見を  
交わすことで新しい  
視点を見つけたい。

学んだことを映像や  
演技で表現し、自分た  
ちの考えを伝えてい  
きたい。

学びを深め、それを  
表現する「モノ」の  
制作を通して考えを  
伝えたい。

### 課題を決めて情報・知識を収集し、3通りの方法で学びを深めます

まずは自分で考える。考えたことを伝え合おう。  
今までのこと、今起きていることを、きちんと知ろう。  
次にみんなで考えよう。今できることを話し合おう。  
そしてそこから未来を思い描いてみよう。

自分の考えを言葉にし  
よう。ディベートや討論  
で意見を交わし考えを  
深めよう。

映像制作やダンスなど  
パフォーマンスを通し  
て、自分たちの学びや考  
えを表現しよう。

書籍やカレンダー、  
アート制作など、も  
のづくりを通して学び  
を伝えよう。

生徒一人ひとりが学びを  
深めて、意見を交わして、  
復興の未来像を描きます。

3つのグループは縦割り  
で1年生から3年生が共同  
で課題に取り組みます。



(左) 中学校の要請を受け、村広報担当の木幡(写真左端)が基調講演。スライドを使い避難前の村のようすと現状を紹介しました (中) 質問をする中学生。「私たちも真剣に考えてみたい」 (右) 話し合いの内容を、12のグループがそれぞれ発表

「ふるさとキャリア教育」をスタートするにあたり、4月28日にオリエンテーションを、5月12日に基調講演とワークショップを行いました。講演では村広報が、写真資料を使い、避難前のようすと、避難後の暮らし、現在の村内、復興への取り組みなどについて説明し、「大人も悩んでいます。真剣に考えた上での『分らない』は、現時点では一つの答えなのです」と、度重なる難しい選択に苦悩する避難村民の姿も伝えました。

また、ワークショップでは、生徒たちが、3学年混合のグループに分かれ、村の思い出と現状について話し合い、将来どのような村になってほしいかを考えました。まとめの発表では、「再び自然を生かせる村に」「農業の盛んな村に戻りたい」「家族の作った野菜を食いたい」「多くの人に帰ってほしい」と、生徒たちの素直な願いが語られました。加えて、健康不安への対策、農業や観光業の復興などについて、早速、具体的な提案もありました。

## ふるさとって何だろう 自分に何ができるんだろう



和田節子校長

基調講演に先立ち、和田節子校長が生徒たちに語りかけました。「今、多くの人たちが懸命になつて村の復興策を考えています。私は、中学生も村づくりに関わるべきだと思います。3年後に選挙権を得る3年生。村のことを知らずに投票ができますか。1年生は2年後、村内の校舎で勉強しているかも知れません。どんな村で、どんな学校で学びたいですか。他人事ではないのです。復興の主役は、皆さんのような若い世代です。今年のふるさと学習は、『決められたことをする』ではなくて、『することを自分たちで決める』活動にしていきたいです。アイデアを出し合って、いいものを作っていきましょう。」